

資料 4

平成30年度鴨川市社会教育委員会議 資料

平成29年度 鴨川市教育行政評価報告書

鴨川市教育委員会 生涯学習課

Ⅱ. 生涯学習

【基本目標】市民一人ひとりの学びを支える生涯学習の振興

誰もがいつでも、どこでも学びたいときに学ぶことができ、その学びの成果を適切に生かせる社会が生涯学習の目指す姿です。このため、市民が家庭や地域での子どもの多様な体験学習をはじめ、生活を豊かにする学習活動・読書活動、趣味やスポーツなどに意欲的に取り組める生涯学習環境づくりを進め、自己実現を支援するとともに、地域コミュニティを育てていきます。図書館においては、多様化した市民ニーズに対応した事業展開を図るとともに、その担い手となる人材の育成に努めます。

Ⅱ－１. 多彩な学習活動の促進

◎…成果 ◆…課題

事業概要	(1) 公民館事業の充実 ①市民同士がお互いに尊重しあい、教えあい、学びあう生涯学習活動の充実 (2) 市内に関係施設のある大学との連携 ①大学等との連携による特色ある生涯学習プログラムの充実 (3) 市民が学びやすい環境づくり ①地域学習・ボランティア活動の支援 (4) 青少年海外派遣の推進 ①国際的感覚の豊かな人間育成
平成 28 年度	《 重点取組 》 ・市民のニーズ、時代に合った公民館主催教室の実施 ・市内に有する大学関連施設と連携した、講演会や各種学習教室などの実施 ・生涯学習事業へのボランティアの活用促進 【実施状況】 ・健康志向の高まりを受け、ハイキングや健康体操等のほか、文化・芸術や趣味をとoshした仲間づくりにつながる公民館教室を実施。 ・大学の持つ知的資産や文化的資産を地域に還元することで、大学の特色を活かした講演会や各種学習教室などを実施。 ・文化施設ボランティアについて研修によりスキルアップを図り、また生涯学習人材バンクについてはリクエストに広く応えられるよう新しい分野の登録者を開拓。 【成果と課題】 ◎市内全 11 館において計 310 回の公民館主催事業を開催、延べ 8,249 人が受講し、受講者が満足する多彩な講座が開催できた。 ◎市内に施設を有する 5 大学と 9 つの事業で連携し計 633 人が参加、アンケートにおいて好評を得られた。 ◎文化施設ボランティアを様々なイベント等に活用できた。また、生涯学習人材バンクについては、新しい分野の登録があった。 ◆公民館利用者の声を聴き、幅広い年齢を対象とした更に魅力のある講座作りに取り組む必要がある。 ◆大学との交流事業が固定化しないよう内容を見極めながら、時代に即した事業を実施していく必要がある。 ◆事業が継続できるよう、ボランティアの募集を引き続き行う。
平成 29 年度	《 重点取組 》 ・市民のニーズ、時代に合った公民館主催教室の実施 ・市内に有する大学関連施設と連携した、講演会や各種学習教室などの実施 ・生涯学習事業へのボランティアの活用促進

	【実施状況】 ・市内全 11 館において昨年度を上回る計 313 回の公民館主催事業を開催。夜間や土日に開講する講座を増やし、幅広い年齢層の受講者に対応した。 ・大学の持つ知的資産や文化的資産を地域に還元することで、大学の特色を活かした講演会や各種学習教室などを実施。 ・文化施設ボランティアについて研修によりスキルアップを図り、また生涯学習人材バンクについてはリクエストに広く応えられるよう新しい分野の登録者を開拓。 ・青少年海外派遣事業の周知を図り、生徒からの応募増加に向け、市内 3 中学校を始め、安房郡内及び近隣の高校（10 校）を訪問した。 【成果と課題】 ◎公民館主催事業には延べ 7,379 人が受講。終了後の受講者アンケートでは、約 9 割が満足という回答であった。（数字は 2 月末現在） ◎市内に施設を有する 5 大学と 8 つの事業で連携し計 765 人が参加。効果的な PR により、参加者の増につなぐことができた。 ◎文化施設ボランティアを様々なイベント等に活用できた。また、生涯学習人材バンクについては、新しい分野の登録があった。 ◎海外派遣事業の説明会には、近年では多人数となる 17 名の参加が得られ 9 名からの申込後、作文及び口述選考の結果、最終的に 6 名（中学生 4 名・高校生 2 名）を派遣した。 ◎海外派遣事業で派遣された生徒の保護者からは、子供の自立心が芽生えた、考え方が大人になったなど、多くの喜びの声が届けられた。 ◆市民のニーズ、時代に合った公民館利用者増につながる主催事業の実施。 ◆大学との交流事業が固定化しないよう内容を見極めながら、交流事業を増やしていく必要がある。 ◆事業が継続できるよう、ボランティアの募集を引き続き行う。 ◆派遣生徒に実施する研修会に関して、部活動の試合や進路に伴う試験により欠席をする生徒がいたため、学校に対して更なる理解を求める必要がある。
平成 30 年度	《 重点取組 》 ・事業仕分け後に行った利用者アンケートをもとに、より良い公民館運営を目指す ・市内に有する大学関連施設と連携した、講演会や各種学習教室などの実施 ・生涯学習事業へのボランティアの活用並びに登録者数を増やしていく ・鴨川市国際交流協会と連携した海外派遣事業の推進及び事業の幅広い周知への取組 【実施状況】 【成果と課題】
平成 31 年度	《 重点取組 》 【実施状況】 【成果と課題】
平成 32 年度	《 重点取組 》 【実施状況】 【成果と課題】
【 5 年間を総括した成果と課題 】	

■ 外部評価 ■

平成 28 年度	・概ね原案のとおり評価する。 ・公民館の若年層の利用について、延べ人数が増えていることは、喜ばしいことである。 ・生涯学習人材バンクボランティア制度の周知・啓発に努めて欲しい。
----------	--

Ⅱ. 生涯学習

平成 29 年度	・ ・ ・
平成 30 年度	
平成 31 年度	
平成 32 年度	

Ⅱ－２．社会教育関連施設の充実

◎…成果 ◆…課題

事業概要	(1) 社会教育関連施設の整備 ①施設の計画的な改修と更新
平成 28 年度	《 重点取組 》 ・ 公民館の耐震診断、及び耐震補強工事の継続実施 【実施状況】 ・ 吉尾公民館の耐震診断の実施 【成果と課題】 ◎耐震診断実施済公民館：5 館(H24 中央、H25 天津小湊、H26 東条、H27 主基、H28 吉尾) 耐震補強工事实施公民館：中央(H27) ◆一部耐震基準を満たしていない主基、吉尾の耐震補強工事の検討
平成 29 年度	《 重点取組 》 ・ 公民館の耐震診断、及び耐震補強工事の継続実施 ・ 老朽化した公民館の施設設備の修繕 【実施状況】 ・ 太海公民館の耐震診断、主基公民館耐震補強設計の実施 ・ 中央公民館屋上防水改修、主基公民館講堂床改修、空調機更新工事等の実施 【成果と課題】 ◎耐震診断実施済公民館：6 館 (H24 中央、H25 天津小湊、H26 東条、H27 主基、H28 吉尾、H29 太海) 耐震補強工事实施公民館：中央(H27) ◎緊急性を考え、優先順位をつけ実施した。 ◆一部耐震基準を満たしていない吉尾、太海の耐震補強工事の検討 ◆東条公民館屋上防水改修工事の検討
平成 30 年度	《 重点取組 》 ・ 公民館の耐震診断、及び耐震補強工事の継続実施 ・ 老朽化した公民館の施設設備の修繕 ・ 社会教育関連施設の AED 設置の推進 【実施状況】 【成果と課題】
平成 31 年度	《 重点取組 》 【実施状況】 【成果と課題】
平成 32 年度	《 重点取組 》 【実施状況】 【成果と課題】

【 5年間の総括した成果と課題 】

■ 外部評価 ■

平成 28 年度	・ 原案のとおり評価する。
平成 29 年度	・ ・ ・
平成 30 年度	
平成 31 年度	
平成 32 年度	

Ⅱ－3. 読書・学習環境の充実

◎…成果 ◆…課題

事業概要	(1) 図書資料の整備・充実 ①親しみやすい図書館環境づくり ②資料の充実 (2) 図書館施設の整備 ①施設・設備の改修 ②公民館図書館分室の機能強化 (3) 子どもの読書活動や習慣づけの推進 ①子どもの読書活動の推進 ②読書習慣づけの推進 ③学校教育と図書館の連携による読書活動の推進 (4) 生涯型読書活動の推進 ①鴨川市生涯読書推進計画に基づく読書活動推進
平成 28 年度	《 重点取組 》 ・ 親しみやすく、見やすい書架への工夫と改善 ・ 小学校図書室への図書配本事業の実施 ・ 大活字本や朗読 CD の充実 【実施状況】 ・ 季節に合わせたテーマによる図書を展示ケースにて紹介する工夫と、著者名の表示を増やし見やすい書架への改善に努めた。 ・ 小湊小へ 100 冊、東条小へ 200 冊「図書館からおすすめの本」を配本すると共に、図書館職員による読み聞かせやブックトーク、図書室整備のアドバイス等を実施。 ・ 大活字本や朗読 CD を購入し、紹介するコーナーを設置。また、公民館図書館分室で大活字本のリストを掲示し周知に努めた。 【成果と課題】 ◎親しみやすく、見やすい書架の工夫・改善をした結果、図書の貸出が昨年度より約 1000 冊増加した。 ◎配本を実施した小学校で、本を読む児童が増加した。 ◎様々なジャンルの大活字本を多く収集した事により、幅広い世代の方に利用されるようになった。 ◆配架の工夫、展示スペースの確保 ◆小学校への図書配本や読書活動支援ため、図書館職員のスキルアップが必要 ◆大活字本が高額である。また、配架する書架スペースが必要

平成 29 年度	《 重点取組 》 ・図書館空調設備更新工事の実施 ・小学校への図書配本事業の拡大 ・市内各公民館での予約本受取サービスの検討 ・読み聞かせ等の子どもの読書活動の推進 【実施状況】 ・空調設備更新工事を実施。 ・長狭小学校へ 150 冊、江見小学校へ 150 冊「図書館からのおすすめ本」を配本するとともに、図書館職員による読み聞かせやブックトーク、図書室整備のアドバイス等を実施。 ・平成 29 年 7 月 1 日から市内各公民館で予約本受取サービスを実施。 ・乳幼児や児童を対象とした読み聞かせ行事を実施。 【成果と課題】 ◎空調設備を更新し適切な空調管理が出来るようになり、利用者の利便性が向上した。 ◎配本事業を 2 校追加し、4 校で配本図書を利用できるようになり、本を読む児童が増加した。 ◎公民館 5 館（中央、西条、大山、太海、江見）にて 9 名が予約本受取サービスを利用し、延べ 32 回で 42 冊の貸出を行った。【平成 30 年 2 月末現在】 ◎読み聞かせ行事を年間で 18 回開催し、参加した延べ 442 名の子どもに絵本や紙芝居の読み聞かせを行った。【平成 30 年 2 月末現在】 ◆市内の全小学校に配本事業を実施するため、残り 4 校について事業費の確保に努めていく必要がある。 ◆更なる予約本受取サービス利用者の拡大を図るため、事業について周知をすすめていく。 ◆小学校低学年から読み聞かせ会への参加が減少しているため、呼びかけや内容の工夫により参加者の増加を図っていく。
平成 30 年度	《 重点取組 》 ・利用者ニーズや利用実態に対応した開館時間を再検討するため、調査を目的とした開館時間延長の試行実施 ・小学校への図書配本事業の拡大 ・第 2 次生涯読書推進計画の策定準備 ・多様なニーズに対応するため、新たな講座の実施 【実施状況】 【成果と課題】
平成 31 年度	《 重点取組 》 【実施状況】 【成果と課題】
平成 32 年度	《 重点取組 》 【実施状況】 【成果と課題】
【 5 年間を総括した成果と課題 】	

■ 外部評価 ■

平成 28 年度	・原案のとおり評価する。 ・小学校への配本について、配慮していただき有り難い。 ・小中学校の授業テーマに関連する図書をクラス分、他の図書館から手配するサービスを今後もお願いしたい。
----------	--

Ⅱ. 生涯学習

	・児童の保護者による読書ボランティアが増えているため、読み聞かせに好評な大型絵本について、引き続き貸し出しを行って欲しい。 ・図書館（分室を除く）での図書の貸し出し数が、年間約 1,000 冊も増えていることはすばらしい。
平成 29 年度	
平成 30 年度	
平成 31 年度	
平成 32 年度	

Ⅲ. 青少年の健全育成

【基本目標】子どもたちの自立を支援する体制整備

次代を担う青少年が、自らの能力や個性を十分に発揮して自立するとともに、地域の担い手として活躍できるように、学校、家庭、地域、関係機関等が連携しながら、子どもたちの自立を支援する仕組みづくりを推進します。あわせて青少年がさまざまな体験・交流活動、社会活動等に参加する機会を拡充するとともに、地域活動の活発化や指導者の育成に努めます。

Ⅲ-1. 啓発活動の推進

◎…成果 ◆…課題

事業概要	(1) 青少年の健全育成に関する啓発の推進 ①体制の整備 ②学校・家庭・地域への啓発
平成28年度	《重点取組》 ・保護者、地域住民、青少年指導者等と連携した啓発の推進 【実施状況】 ・青少年指導者研修会（11月）を開催し、『インターネットトラブルの現状と対策』に関する講演会を実施 ・青少年健全育成推進大会（11月）を開催し、小中高生による青少年健全育成に関する標語等を発表 【成果と課題】 ◎青少年指導者研修会では千葉県警情報セキュリティアドバイザーによる講演会を実施し、現代の大きな問題であるインターネットトラブルについての周知を図った。 ◎青少年健全育成推進大会では、小中高生等から青少年健全育成に関する標語及び作文を募集（応募数：標語813作品、作文377作品）することにより、青少年問題に対する関心を高めることができた。 ◆講師謝礼に伴う予算（平成28年度30,000円）に限りがあるため、講師選定作業が困難である。 ◆各団体に属していない市民の参加者が少ないため、幅広い啓発活動に繋がらない。
平成29年度	《重点取組》 ・保護者、地域住民、青少年指導者等と連携した啓発の継続 【実施状況】 ・青少年健全育成推進大会を開催し、小中高生から応募のあった青少年健全育成作文及び標語の表彰を実施 ・青少年指導者研修会を開催し、『子どもの心に寄り添う柔軟な関わり方』を演題に講演会を実施 ・青少年健全育成推進大会で表彰された青少年健全育成作文及び標語を市民ギャラリー及び図書館に掲示 【成果と課題】 ◎青少年健全育成推進大会及び青少年指導者研修会では、小中高生は標語等の作成を通じて、いじめ問題等への意識高揚が図られ、保護者からはアンケートの結果、大変参考になったとの声が多く寄せられた。 ◎青少年健全育成推進大会で表彰された作文及び標語を図書館等に掲示したことにより、多くの市民に大会の意義や主旨が伝わった。 ◆青少年健全育成推進大会から青少年指導者研修会へ移行する際の聴講人数の減少。 ◆小中学生及び高校生からの青少年健全育成作文及び標語の応募数の減少。
平成30年度	《重点取組》 ・青少年指導者研修会の参加者数増加に向けた取組（関係団体への一層の周知、開催形式の見直し） ・青少年健全育成作文及び標語の応募数増加に向けた取組（各小中学校への訪問） ・青少年健全育成推進大会での優秀作品（作文・標語）の幅広い周知に向けた取組（学校掲示や報道発表） 【実施状況】 【成果と課題】
平成31年度	《重点取組》 【実施状況】 【成果と課題】
平成32年度	《重点取組》

	【実施状況】 【成果と課題】
【 5年間を総括した成果と課題 】	

■ 外部評価 ■

平成28年度	・原案のとおり評価する。 ・青少年指導者研修会開催については、今後も広報及び各種団体等に積極的に周知し、参加者を増やして欲しい。
平成29年度	
平成30年度	
平成31年度	
平成32年度	

Ⅲ－２．青少年育成団体の活動の活性化及び地域との連携強化

◎…成果 ◆…課題

事業概要	(1) 青少年育成団体の活動の活性化 ①青少年育成団体活動の充実 ②多様な体験活動を通じた青少年健全育成 (2) 青少年育成団体と地域の連携強化 ①青少年相談員活動の充実 ②非行防止活動の推進
平成28年度	《 重点取組 》 ・放課後子ども教室（土曜スクール）の推進 ・非行防止活動の推進 【実施状況】 ・土曜スクール（6スクール）の推進及び未実施小学校区の開校に向けた体制づくり ・青少年育成鴨川市民会議と鴨川警察署が連携した非行防止パトロールの実施 【成果と課題】 ◎土曜スクール開催実績（各スクール年間22回開催。6スクール合計 延べ1,918名の児童が参加） ◎未実施小学校区のうち東条小学校区において開校に向けて動き始めた。 ◎非行防止パトロールを年間7回行い、非行抑止効果を高めることができた。 ◆鴨川小学校区における土曜スクール開校に向けた取組。 ◆運営基盤が弱体化傾向にある土曜スクールに対する更なる助成。 ◆効果的なパトロール方法の検討
平成29年度	《 重点取組 》 ・鴨川小学校区における土曜スクール開校に向けた取組 ・効果的なパトロール方法の検討 【実施状況】 ・未実施小学校区であった東条小学校区での土曜スクールの開校 ・各土曜スクール（7スクール）への支援（各スクール年間22回開催。合計176名の児童が活動） ・青少年育成鴨川市民会議と鴨川警察署が連携した非行防止パトロールの実施（年間7回） 【成果と課題】 ◎各土曜スクールでの活動の他、土曜スクール合同事業を年4回実施したことにより、異学年交流やスクールスタッフとの交流が深まるとともに、他校児童との仲間作りが図られた。 ◎非行防止パトロールでは、警察、学校、関係団体と行政が連携しながら、市民が一体となった非行防止活動の啓発が図られ、パトロールを通じたまちづくりができた。

Ⅲ．青少年の健全育成

	◆鴨川小学校区における土曜スクールの開校に向けた取組。【未実施小学校区であった、鴨川小学校区及び東条小学校区のうち、東条小学校区での開校を先行することとなったため、具体的な取組に至らなかった】
平成30年度	《 重点取組 》 ・鴨川小学校区における土曜スクール開校（平成31年度）に向けた取組 ・第20期千葉県青少年相談員の委嘱替えに向けた事務的な支援 ・千葉県青少年健全育成条例に基づく立入調査事務の権限移譲に向けた調査・研究 【実施状況】 【成果と課題】
平成31年度	《 重点取組 》 【実施状況】 【成果と課題】
平成32年度	《 重点取組 》 【実施状況】 【成果と課題】
【 5年間を総括した成果と課題 】	

■ 外部評価 ■

平成28年度	・原案のとおり評価する。
平成29年度	
平成30年度	
平成31年度	
平成32年度	

IV. 文化振興

【基本目標】 鴨川ならではの伝統文化・芸術の活用

市民一人ひとりがふるさとの文化や歴史、芸術を理解し、郷土愛と誇りを持って、心豊かな生活を送ることができるよう、鴨川市の貴重な文化財の保護・保全に努め、市民の文化芸術活動を支援するとともに、多様な文化・芸術に接する機会や活動成果の発表の場の拡充を図ります。文化芸術活動の拠点となる新たな市民ギャラリーの整備、また多目的施設の活用を図るとともに、潜在的な文化資源の掘り起こしに努め、文化・芸術活動への市民の参加を促進します。

IV-1. 文化・芸術の振興

◎…成果 ◆…課題

事業概要	(1) 文化・芸術の振興 ①文化団体の活動促進 ②鑑賞機会の充実
平成 28 年度	《 重点取組 》 ・鴨川市文化協会の活動支援 ・アート鑑賞ツアーの開催 ・市所蔵作品、所蔵資料の展示公開 【実施状況】 ・文化協会の活動支援として補助金 70,000 円を交付し、また各部門からの相談への対応。 ・「ルノワール展鑑賞ツアー 事前学習会」（6 月 18 日）、「ルノワール展鑑賞ツアー」（6 月 23 日）、「ゴッホとゴーギャン展鑑賞ツアー」（11 月 29 日）の開催。 ・「堅山南風素描展」（9 月）、「江戸の狂歌摺物 北斎と俊満」（11～12 月）、「横山大観 霊峰―特別公開―」（1 月）の開催。 【成果と課題】 ◎鴨川市文化協会には 11 部門 250 名の会員が加入し、年間延べ 2,293 名が活動。日頃からの活動の成果を鴨川市文化祭で発表。1,324 名が来場し、多くの市民が様々な分野の文化活動に触れることができた。 ◎本格的な美術展を鑑賞する機会を市民に提供し、2 回のツアーに合計 81 名、事前学習会に 16 名が参加。初めて美術展を鑑賞する市民を含め、幅広い層の方々に芸術鑑賞の機会を提供し、好評を得られた。 ◎本市所蔵品の展示公開を通して、貴重な資料類の鑑賞機会を提供し、鴨川市における文化芸術を広く知らしめることができた。三つの企画展で合計 3,785 名の入館者（市内 1,819 名、市外 1,966 名）を記録。また企画展入館者に実施したアンケート結果として、展示内容が「よい」との回答が平均 85%を記録。 ◆高齢化に伴う協会員数の減少 ◆ツアー参加希望者の大幅増に対する対応の検討 ◆新しい分野を含めた開催テーマの設定と展示内容の検討
平成 29 年度	《 重点取組 》 ・文化協会の活動支援 ・アート鑑賞ツアーの開催 ・市所蔵作品、所蔵資料の展示公開 【実施状況】 ・文化協会の活動支援として補助金 70,000 円を交付し、また各部門からの相談への対応。 ・「北斎とジャポニズム展事前学習会」（11 月 7 日）、「北斎とジャポニズム展鑑賞ツアー」（11 月 15 日）の開催。

	・市所蔵作品展「吉田芳夫彫刻展」(9月)、「明治大正期の日本画展」(10～11月)の開催。 【成果と課題】 ◎鴨川市文化協会 10 部門 217 名の会員を中心に、市民の日頃からの活動の成果を鴨川市文化祭で発表。1,042 点の出品と 1,133 名の来場者を記録し、多くの市民が様々な分野の文化活動に触れることができた。 ◎本格的な美術展を鑑賞する機会を市民に提供するツアーに 42 名、事前学習会に 19 名が参加。幅広い層の方々に芸術鑑賞の機会を提供し、好評を得られた。 ◎本市所蔵品の展示公開を通して、貴重な資料・作品類の鑑賞機会を提供した。二つの企画展で合計 1,185 名の入館者(市内 749 名、市外 436 名)を記録。また二つの企画展入館者に実施したアンケート結果として、展示内容が「よい」との回答が平均 88%を記録。 ◆文化協会会員の高齢化に伴う協会員数の減少 ◆アート鑑賞ツアー参加者層の拡大 ◆収蔵資料・作品類の調査研究と有効活用の推進
平成 30 年度	《 重点取組 》 ・文化協会の活動の活性化への支援と協力 ・文化芸術の鑑賞機会の充実 ・市所蔵資料、作品類の有効活用を目的とした展示公開 【実施状況】 【成果と課題】
平成 31 年度	《 重点取組 》 【実施状況】 【成果と課題】
平成 32 年度	《 重点取組 》 【実施状況】 【成果と課題】
【 5 年間を総括した成果と課題 】	

■ 外部評価 ■

平成 28 年度	・原案のとおり評価する。
平成 29 年度	
平成 30 年度	
平成 31 年度	
平成 32 年度	

IV-2. 文化施設の充実

◎…成果 ◆…課題

事業概要	(1) 文化活動の拠点施設の整備・活用 ①市民ギャラリーの整備 ②多目的施設の完成後の活用
平成 28 年度	《 重点取組 》 ・市民ギャラリー及び曾呂公民館の旧曾呂小学校校舎への移転 【実施状況】 ・老朽化した市民ギャラリー及び曾呂公民館の機能を旧曾呂小学校校舎へ移転するために、文化施設運営協議会を4回開催し、計画の策定に取り組んだ。 【成果と課題】 ◎専門的な見地から各委員の意見を徴し、アートを中心に据えた地域の交流の拠点となる施設整備に関する基本計画の骨子をまとめた。 ◆平成 28 年度の検討の結果に基づく、基本計画の策定
平成 29 年度	《 重点取組 》 ・市民ギャラリー及び曾呂公民館の旧曾呂小学校校舎への移転 【実施状況】 ・市民ギャラリー及び曾呂公民館の旧曾呂小学校への移転整備計画案の再検討。 【成果と課題】 ◆遊休施設の有効活用及び事業仕分けの結果を勘案したうえで、今後の市民ギャラリーの遊休施設への移転や、郷土資料館・文化財センターなどの既存施設との統合などを視野に入れた整備計画の検討
平成 30 年度	《 重点取組 》 ・有識者の意見を参考にした計画の検討 【実施状況】 【成果と課題】
平成 31 年度	《 重点取組 》 【実施状況】 【成果と課題】
平成 32 年度	《 重点取組 》 【実施状況】 【成果と課題】
【 5 年間を総括した成果と課題 】	

■ 外部評価 ■

平成 28 年度	・原案のとおり評価する。
平成 29 年度	
平成 30 年度	
平成 31 年度	
平成 32 年度	

Ⅳ－３．歴史・文化の保全と活用

◎…成果 ◆…課題

事業概要	(1) 指定文化財保護活動の支援と適正保護の推進 ①文化財等の実態調査 ②文化財保護活動への支援 (2) 市史の編さん、史・資料調査と保存・活用 ①市史編さんの継承 ②史・資料の保存と活用 (3) 地域の歴史・文化資源の周知と有効活用 ①地域の歴史・文化の理解促進
平成 28 年度	《 重点取組 》 ・文化財等の保護管理に向けた調査 ・市史編さん事業の継続と活用の推進 ・展覧会や各種講座の開催による歴史・文化の理解促進 【実施状況】 ・「誕生寺祖師堂」を市の文化財に指定することを目的として、建築の専門家である市及び県文化財審議委員による現地調査を2回実施。 ・市史編さん委員会の開催（6、12、2月）とあゆみシリーズ他発刊物の頒布 ・「新収蔵コレクション～初めてのおひろめ」（7～9月）、「3Dデータで観る伊八と義光」（2～3月）の開催、年間を通した市内外での講座等による、本市の歴史と文化の周知 【成果と課題】 ◎「誕生寺祖師堂」の文化財的な価値に関する、専門的な見地からの所見を得ることができた。その結果、指定への手続きを進めるための見通しを立てることができた。 ◎鴨川市史やあゆみシリーズなど85冊を頒布することで、市内外に鴨川市の歴史や文化を広く知らしめることができた。 ◎特別展、企画展の入館者1,083名、講座受講者1,375名を対象に、本市の歴史と文化に関する理解を促した。 ◆市の文化財に指定する他の候補に関する調査推進 ◆あゆみシリーズ発刊完了後の市史編さん事業継続の方向性 ◆展覧会及び講座の魅力ある内容の更なる充実
平成 29 年度	《 重点取組 》 ・文化財等の保護管理に向けた調査 ・市史編さん事業の継続と活用の推進 ・展覧会や各種講座の開催による歴史・文化の理解促進 【実施状況】 ・「誕生寺祖師堂」の文化財指定に関する、文化財保護審議会への諮問 ・市史編さん委員会の開催（6、12、3月）と、『江見のあゆみ』発刊・あゆみシリーズ他、市史発刊物の周知と頒布 ・「輪廻のラグランジェ原画展」（7～9月）、「彫物大工・廻塚の伊八展」（12～3月）の開催、年間を通した市内外での講座・解説会等による、本市の歴史と文化の周知 【成果と課題】 ◎「誕生寺祖師堂」の指定に関する文化財保護審議会の答申を受け、市指定有形文化財に指定することができた。 ◎『江見のあゆみ』の発刊、鴨川市史やあゆみシリーズなど208冊（2月16日現在）を頒布することで、市内外に鴨川市の歴史や文化を広く知らしめることができた。 ◎二つの企画展の入館者が3,825名（2月末現在）を記録したことにより、郷土資料館の入館料が831,590円（2月末現在）となり、過去5年間で最高値を記録した。 ◎市内外での講座受講者及び解説会参加者2,167名（2月末現在）を対象に、本市の歴史と文化に関する理解を促した。 ◆市指定文化財の候補「一戦場公園野馬土手遺構」や「嶺岡山野絵図」の指定に向けた取

Ⅳ．文化振興

	り組み ◆古文書・史料類の適正保存と有効活用の推進 ◆展覧会及び講座の魅力ある内容の更なる充実
平成 30 年度	《 重点取組 》 ・文化財指定後の周知を目的とした説明板等の整備の促進 ・「嶺岡牧」シンポジウムの開催 ・展覧会や各種講座の開催による歴史・文化の理解促進 【実施状況】 【成果と課題】
平成 31 年度	《 重点取組 》 【実施状況】 【成果と課題】
平成 32 年度	《 重点取組 》 【実施状況】 【成果と課題】
【 5 年間を総括した成果と課題 】	

■ 外部評価 ■

平成 28 年度	・原案のとおり評価する。 ・地域の歴史や文化に関する出前講座が好評であったことから、今後も土曜スクール等で行って欲しい。
平成 29 年度	
平成 30 年度	
平成 31 年度	
平成 32 年度	

VI-2. 親が育つ環境づくり

【生涯学習課】

◎…成果 ◆…課題

事業概要	(1) 家庭教育の支援 ①PTA活動などの促進 (2) 保護者活動の支援 ①保護者研修機会の充実 ②家庭教育相談や家庭教育指導員の活用
平成 28 年度	《 重点取組 》 ・保護者の育ちを応援する研修機会の充実 【実施状況】 ・子育て学習や親子のふれあいを学ぶ場として「家庭教育学級」を市内全幼稚園で実施。 ・家庭教育学級の取組を他の年齢層にも広げ、地域を挙げて家庭教育を推進していくために、民間・地域と連携し「家庭教育講演会」を実施。 (共催：オーシャンズ若潮明社) 【成果と課題】 ◎「家庭教育学級」は、市内全幼稚園8園で延べ16回開催。アンケートには「親子のふれあいや子育ての気づき、また保護者の交流の場になった」との結果。 ◎「家庭教育講演会」は、子育て孫育て世代から教育関係者の131名参加。アンケートには「子育ての貴重なヒントが得られた」等の好評価を得た。 ◆家庭教育講演会には、現役子育て世代は忙しく参加割合が少ない状況であるため、子どもイベントに同伴の保護者を狙った開催企画とする。
平成 29 年度	《 重点取組 》 ・保護者の育ちを応援する研修機会の充実 【実施状況】 ・子育て学習や保護者の交流、親子のふれあいなどを学ぶ場として市内全幼稚園で「家庭教育学級」を実施。 ・広く市民を対象に家庭教育学級の取組を広げるため、オーシャンズ若潮明社と連携して「家庭教育講演会」を実施。また、あわアースひろばの子どもイベントと併設開催し、同伴の保護者の参加を試みた。 【成果と課題】 ◎「家庭教育学級」は、市内全幼稚園8園で延べ15回開催。アンケートには「保護者の交流や親子のスキンシップが図られた。」との感想。延べ460名の親子の参加を得た。 ◎「家庭教育講演会」は、現役子育て世代の保護者から教育関係者の88名が参加。アンケートには「家庭教育は想像と工夫」「子育ての振り返りの場になった」等の好評価を得た。 ◆子どもイベントとの併設開催を試みたが、約400名の親子も小学校低学年が中心で、親が子どもから離れられず、講演会参加者の2割程度の参加率と振るわなかった。聞き取りでは、講演会の長い時間目を離すのに抵抗があったようだった。
平成 30 年度	《 重点取組 》 ・「家庭教育講演会」への参加者の拡大 【実施状況】 【成果と課題】
平成 31 年度	《 重点取組 》 【実施状況】 【成果と課題】
平成 32 年度	《 重点取組 》

	【実施状況】 【成果と課題】
【 5年間を総括した成果と課題 】	

■ 外部評価 ■

平成 28 年度	・原案のとおり評価する。 ・保護者同士がコミュニケーションをとる場所を沢山つくって欲しい。保護者同士が親しければそれによって、子供同士のいじめも減少すると考える。
平成 29 年度	
平成 30 年度	
平成 31 年度	
平成 32 年度	

